

## 第4学年 国語科学習指導案

日 時：平成21年10月2日（金）5校時

児 童：第4学年 男16名 女11名 計27名

指導者：佐藤 圭

場 所：4年教室

1 単元名 材料の選び方を考えよう

教材名 「アップとルーズで伝える」

「四年三組から発信します一選んで伝える」（光村図書「はばたき」4年下）

2 単元について

(1) 単元について

第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」ことである。本単元に関わる内容としては、「イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」及び「オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」が指導事項となる。また、「書くこと」の目標は、「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫しながら書こうとする態度を育てる。」ことである。本単元に関わる内容としては、「ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。」及び「イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。」が指導事項となる。

本単元「材料の選び方を考えよう」は、説明文教材を段落や中心語句などに注意すると共に、「アップ」と「ルーズ」という2つの事柄を対比させながら読み取る学習と、教材文の内容を参考に、自らが情報の発信者となって、情報の収集、選択、発信を体験する学習から構成されている。

第一教材「アップとルーズで伝える」は、児童が触れるメディアを通じた情報に関する内容のもので、テレビや新聞などを通して私たちに届けられている映像や写真が、送り手の目的や意図によって取捨選択されたものであることを、基本的な映像の技法である「アップ」と「ルーズ」を通して考えさせていくものである。また、写真と文章を対応させて読みながら、対比的な段落関係をつかみ、それを含んだ文章全体の構成をとらえることを行う。

第二教材「四年三組から発信します」は、読みの学習を通して身に付けた力をもとに、身の周りで疑問に思ったことや興味を持った事柄について調べ、集めた資料を選び、相手や目的に応じて新聞や文章にまとめる学習である。これは、今後の国語の学習だけではなく、情報活用の基礎となる力を育成するためにも重要な学習である。

以上のことから本単元の目標を「対比・まとめなど、段落相互の關係に気を付けることで内容把握しやすくなることが分かり、取材したことを相手と目的に応じて選材して分かりやすく伝えることができる」と設定した。

(2) 児童について

「読み・理解する力」については、文章を読む場面において、重要語句や中心となる語・文は何か気をつけながら読むように手立てを組んで指導を行ってきた。その結果、重要語句に気付き、それ

に基づいて要点をまとめたり、小見出しを付けたりすることができるようになってきている。

「論理的に考える力」については、文章に書かれている内容について中心となる事柄は何かを考えたり、学び合いの場面において、自分の考えの根拠を明らかにして話したりできるように、指示やワークシートを工夫して指導してきた。その結果、根拠をもとに考えようとするようになってきた。

「表現する力」については、「『かむ』ことの力」の学習を通して、段落構成を意識するよう指導してきたところ、段落、文章の組み立てを考えて、説明文が書けるようになってきた。また、グループの話し合いでは、話し合いの視点を明らかにするよう指導を心掛けた結果、自分の考えを持ち、話題に沿って考えを出し合うことができるようになってきている。

### (3) 指導にあたって

「国語の力」を高めるために、次のような仮説に関わる指導を行っていききたい。

#### ①仮説1 言語活動を取り入れた単元の工夫と展開について

第三次において、実際に新聞を書くという活動を行うことによって、相手や目的に応じた表現のしかたについて考えさせたい。そのため、「アップとルーズで伝える」を読む活動では、写真と文章を対応させて読みながら、対応的な段落関係をつかみ、それを含んだ文章構成をとらえさせる。そして、その内容を踏まえて、友達同士で読み合うことや、話し合うことによって、相手に応じた情報の選び方や分かりやすい新聞の書き方に気付かせたい。

#### ②仮説2 児童が主体的に学習に取り組めるような学習形態の工夫について

児童が主体的に取り組めるよう、ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れる。自分の考えは持っているものの、考えに自信が持てず、発言には消極的な児童が多いため、まずは少人数での話し合いを持たせることで自信に繋げさせていきたい。また、考えを持てずにいる児童にとっても、ペア学習やグループ学習を行うことによって、考える場やヒントを得る機会を持たせていく。さらに、新聞作りや調べ学習においてもグループの活動を取り入れ、主体的に活動させたい。

#### ③仮説3 「支える力」としての言語環境や読書環境について

認め合う場を設定することによって、発言しやすい雰囲気を作り、子どもたちが活発に意見交換できるようにする。朝活動の時間に対話スキルを位置づけ、毎日の積み重ねにより、発言力を高めさせる。また、相手や目的に応じた資料選びについて意識させるため、「アップ」と「ルーズ」の写真が掲載されているものや、新聞の書き方に関する図書資料を用意し、朝活動や隙間読書の時間などを使い、単元との平行読書を進めていく。多くの図書資料に触れさせることによって、児童の関心を広げるとともに、内容理解及び書くことに繋げていきたい。

## 3 単元目標

◎対比・まとめなど、段落相互の関係に気をつけることで内容把握しやすくなることが分かり、取材したことを相手と目的に応じて選材して分かりやすく伝えることができる。

(関心・意欲・態度)

○伝える目的や相手に応じて、情報の選び方や表現方法が異なっていることに気づき、自分が表現していくときに役立てていこうとしている。

(書くこと)

◎取材したことを相手に応じて分かりやすく書いて知らせる。

◎相手や目的に応じ、必要な材料を集めたり、選択したりして書いている。

(読むこと)

○それぞれの段落が文章全体の中でどんな働きをしているかをとらえている。

○アップとルーズの働きについて、写真と対応させながら中心となる語や文をとらえて読んでいる。

#### 4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	書くこと	読むこと
○伝える目的や相手に応じて、情報の材料や選び方や表現方法が異なっていることに気づき、表現するときに役立てていこうとしている。	◎取材したことを相手に応じて分かりやすく書いている。 ◎相手や目的に応じ、必要な材料を集めたり、選択したりして書いている。	○それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読む。 ○写真と対応した部分に注意して読み取り、アップとルーズのそれぞれの特徴をまとめる。

#### 5 単元指導計画（17時間）

次	時	主な学習活動	評価規準（評価方法）
第一 次	1	○1学期の「新聞記者になろう」を振り返る。 ○写真を取り入れた新聞を作ることを確認し、単元の見通しを図る。	【関】新聞作りに興味を持ちこれからどんな新聞を作りたいか、イメージを持つことができる。 (発言・ノート)
第二 次	2	○全文を読み、大まかな内容をつかむ。 ・キーワードに着目させる。	【読】「アップとルーズで伝える」を通読し、内容の大体をつかみ、今後読み進めることに意欲をもっている。(観察・発言)
	3	○「写真(画面)の写し方の違い」について読み、内容をとらえる(①～③段落)。	【読】アップとルーズのそれぞれの意味や「対比説明—まとめ」の書き方になっていることを読み取っている。(発言・ノート)
	4	○アップとルーズの特長について読み、内容をとらえる(④～⑥段落)。	【読】写真と対応させながら文章を読み、4段落や5段落の対比関係を考え、「アップ」と「ルーズ」のそれぞれの意味・長所と短所・使い分けについて読み取っている。(発言・ワークシート)
	5	○筆者の意図について読み、内容をとらえる(⑦～⑧段落)。	【読】映像・写真が送り手の意図や目的によって取舍選択することが大切であるという筆者の考えについて読み取っている。(発言・ワークシート)
	6	○全体の文章構成(段落相互の関係)を要点や指示語、前時までの学習などを手がかりに考える。 ・写真にキャプションをつける。	【読】「対比説明①—まとめ①—対比説明②—まとめ②—一般化—全体のまとめ」という文章構成を読み取っている。(発言・ワークシート)

第三 次	7	新聞を作り、発信しよう ○低学年に向けて発信することを規定し、アップとルーズで写した写真を取り入れた新聞をグループごとに作るという目的を持つ。	【関】 アップやルーズで撮った写真を使って、自分たちが知らせたいことや、相手が知りたいことをまとめる活動に意欲を持っている。 (観察・発言)
	8 ・ 9	○取り上げる事柄について取材する。	【書】 グループごとに伝えたい内容について必要な情報を集めることができている。 (観察・ワークシート)
	10	○取材した事柄から情報を選択する。	【書】 グループごとの活動に積極的に加わり、何をどのように伝えるのか、自分の考えをもっている。(発言・ワークシート)
	11	○記事の下書きをノートにまとめる。	【書】 集めた情報から、記事の下書きをノートにまとめながら書いている。(ノート)
	12	○割り付けをして、記事の下書きをする。	【書】 新聞用紙にグループごとに割り付けを考え、下書きを書いている。(作品)
	13	○選んだ写真にキャプションを付け、記事を書く。	【書】 伝えたい内容の資料を精選し、その内容についてのキャプションや記事を工夫して書いている。(作品)
	14 ・ 15	○目的に合っているかを確認しながら読み合い、加筆修正して新聞を清書する。	【関】 他のグループの意見も取り入れながら、意欲的に作業に取り組んでいる。(観察) 【書】 相手や意図に応じて写真や材料を選び、分かりやすくまとめている。(作品)
	16 本 時	○新聞を読み合い、集めた情報について分かりやすく説明されているか、写真が有効に使われているかなどを交流し合う。	【書】 「発信新聞」をグループごとに読み合い、相手や目的に応じた表現の仕方について評価することができる。(発言・プリント)
	17	○どんなことに気をつけて作ったのかを振り返り、アップとルーズについて、考えたことをまとめる。	【書】 自分の取り組みについて、教材文で述べられていたことを視点に振り返り、自分の考えをもつことができる。(発言・ワークシート)

6 本時の指導（16／17）

(1) 本時の目標

教材文で知った発信の仕方をいかした「発信新聞」をグループごとに読み合い、相手や目的に応じた表現の仕方についてよさを見つけることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	発問と予想される反応	指導上の留意点 (※支援 ☆評価)
導入 5分	1 前時の学習を想起する。	○どんなことに気をつけて新聞を作りましたか。 ・伝えたいことをはっきりすること。 ・目的に応じた写真の使い方。 ・低学年にも分かりやすい説明の表し方になっている。	※単元計画表や前時の学習から確認する。
	2 本時の学習課題を確認する。	○今日の課題を確かめましょう。	
グループごとに作った新聞を読み合い、よさを見つけよう。			
展開 35分	3 本時の学習の見通しをもつ。 ・新聞を読む順番や流れを確認する。 ・評価するポイントを確認する。	○グループごとに「発信新聞」を読みます。 ○新聞を読むポイントを確認しましょう。 ・見出しは工夫されているか。 ・記事はわかりやすく書かれているか。 ・「アップ」または「ルーズ」の写真の使い方はよいか。 ○掲示した「発信新聞」をグループごとに読んで、気づいたことやもう少し詳しく知りたいことなどを学習カードに書きましょう。	※グループの中の一人が音読してみんながしっかりと読むようにする。 ※3つのポイントに沿って評価をすることを意識させる。
	4 グループごとに新聞を読み合い交流する。 ・新聞をグループごとに読み、ワークシートに見出しの書きぶり・記事の構成・写真の選び方について記入する。 ・グループごとに交流し、考えをまとめる。	○新聞のよさ・感想を書き終わったらグループごとに交流し合う。  ○読んだ新聞のよさをワークシートに記入する。	

	5 全体で発表し合う。 ・それぞれのグループの代表が発表する。	○友達「発信新聞」を読んだのよさを発表して、発信の方法を確認する。	☆相手や目的に応じた発信になっているか評価できている。(発言・ワークシート)
終 末 5 分	6 本時の学習を振り返る。 ・まとめと感想を書く。  7 次時の学習内容を確認する。	○今日の学習を振り返って、まとめと感想を学習カードに書きましょう。 ○「アップとルーズで伝える」をもう一度振り返り、今日の学習のまとめと比べ、単元のまとめをしたいと思います。	

(3) 具体の評価規準

評価領域	◎十分に満足できる	○おおむね満足できる	支援を要する児童への手だて
書くこと	発信者の表現のよさについて、見出しの書きぶり・記事の構成・写真の選び方の3つの項目について、具体的に書くことができる。	発信者の表現のよさについて、見出しの書きぶり・記事の構成・写真の選び方の3つの項目について書くことができる。	今まで学習してきた、3つのポイントを確認させ、「発信新聞」の中で、そのポイントからよいところを書くことができるようにする。

7 板書計画

<p>四年三組から発信しよう</p> <p>発信新聞を作る時に気をつけたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたいことをはっきりさせる</li> <li>・低学年にも分かりやすいように書く</li> <li>・「アップ」の写真を使う</li> <li>・「ルーズ」の写真を使う</li> </ul> <p>グループごとに作った新聞を読み合い、よさを見つけよう。</p> <p>新聞を読むポイント</p> <p>伝えたいことがはっきりしているか。</p> <p>○見出しについて</p> <p>○記事について</p> <p>○写真の選び方について</p> <p>まとめ</p> <p>伝えたいことをはっきりさせるためのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見出しを工夫する。</li> <li>○記事を工夫して書く。</li> <li>○写真の選び方を工夫する。</li> </ul>
---

## 8 参考資料

	書名	作者	出版社
1	みんな新聞記者・新聞づくり入門	大澤和子、園部泰宏、大澤明洋	ポプラ社
2	みんな新聞記者・学級新聞 12 か月	大澤和子、園部泰宏、大澤明洋	ポプラ社
3	みんな新聞記者・おもしろ壁新聞入門	大澤和子、園部泰宏、大澤明洋	ポプラ社
4	情報の選び方・使い方	中村 司	ポプラ社
5	学校のまわりの植物ずかん	おくやまひさし	ポプラ社
6	めざせ！フィールド観察の達人	飯村茂樹	偕成社
7	森は地球のたからもの	宮脇 昭	ゆまに書房
8	ヘチマのかんさつ	佐藤有恒	あかね書房
9	サクラの一生	守矢 登	あかね書房
10	桜の雑学事典	井筒清次	日本実業出版社
11	神社の見方	外山晴彦（編集）	小学館

している。

(書くこと) ○取材したことを相手に応じて分かりやすく書いて知らせる。

○相手や目的に応じ、必要な材料を集めたり、選択したりして書いている。

(読むこと) ○それぞれの段落が文章全体の中でどんな働きをしているかをとらえている。

○アップとルーズの働きについて、写真と対応させながら中心となる語や文をとらえて読んでいます。

要旨		受け手が知りたいことは何か、送り手が伝えたいことは何かを考えて、アップとルーズでとるかを決めたり、とったものを選んだりしている。																															
意味段落	形式段落	教材分析																															
I はじめ 「アップ」と「ルーズ」の説明及び「アップ」と「ルーズ」の意味のちがいについての問題提起	①	ルーズでとった全体の様子。	・会場全体 ・コート全体 ・観客席 ・スクリーン ・おうえん席	・画面には会場全体がうつし出されています。	②	アップでとった選手の様子。	・コートの中央 ・選手 ・目 ・顔つき	・画面は、コートの中央に立つ選手を大きくうつし出しました。	③	アップとルーズでは、どんなちがいがあのか(問題提起)。	・初めの画面 ・次の画面 ・どんなくでしょうか。(問いかけ)	・アップとルーズでは、どんなちがいがあのかでしょう。	④	アップでとったゴール直後のシーン。 アップでとると、細かい部分の様子がよく分かる。 しかし、走っている選手以外の、うつし出されていない多くの部分のことは、アップでは分からない。	・しかし ・このとき	・アップでとると、細かい部分の様子がよく分かります。 走っている選手以外の、うつし出されていない多くの部分のことは、アップでは分かりません。	⑤	試合終了直後のシーン。 ルーズでとると、広いはんいの様子がよく分かる。 でも、各選手の顔つきや視線、それらから感じられる気持ちまでは、なかなか分かりません。	・でも	・ルーズでとると、広いはんいの様子がよく分かります。 でも、各選手の顔つきや視線、それらから感じられる気持ちまでは、なかなか分かりません。	⑥	アップとルーズには、それぞれ伝えられることと伝えられないことがある。 それで、目的に応じてアップとルーズを切りかえながら放送している。	・このように ・それで	・アップとルーズには、それぞれ伝えられることと伝えられないことがあります。 目的に応じてアップとルーズを切りかえながら放送をしています。	⑦	写真にも、アップでとったものとルーズでとったものがあり、目的にいちばん合うものを選んで使うようにしている。	・くにも	・写真にも、アップでとったものとルーズでとったものがあります。	⑧	受け手が知りたいことは何か、送り手が伝えたいことは何かを考えて、アップとルーズでとるかを決めたり、とったものを選んだりしている。	・くしているのです。(断定)	・テレビでも新聞でも、受け手が知りたいことは何か、送り手が伝えたいことは何かを考えて、アップとルーズでとるかを決めたり、とったものを選んだりしているのです。	IVまとめ 筆者の主張
II事例1 アップとルーズのそれぞれの長所と短所と目的に応じた使い分け	III事例2 写真の場合のアップとルーズの使い分け																																